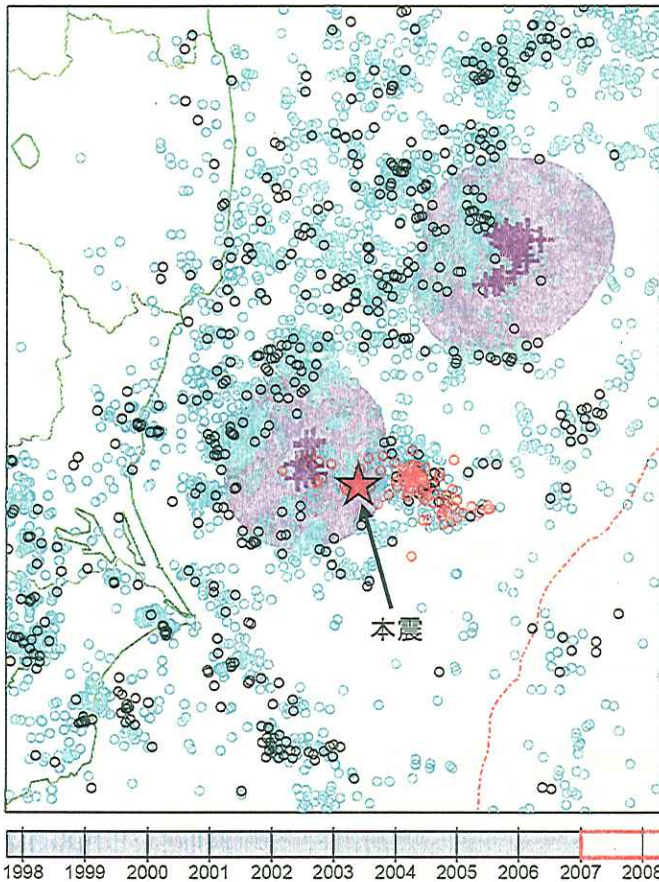


# 茨城県沖の地震 (2008/5/8, M7.0) 発生前の地震活動静穏化 (M $\geq$ 3.0)

地震発生前に静穏化が見られた

2008年5月8日の茨城県沖の地震 (M7.0) 発生前までの気象庁一元化震源データを精査すると、2007年以降、特定の領域が静穏化していたという結果が得られる。

2008年5月8日の茨城県沖の地震 (M7.0) は、その際に静穏化領域として抽出されていた領域で発生した。



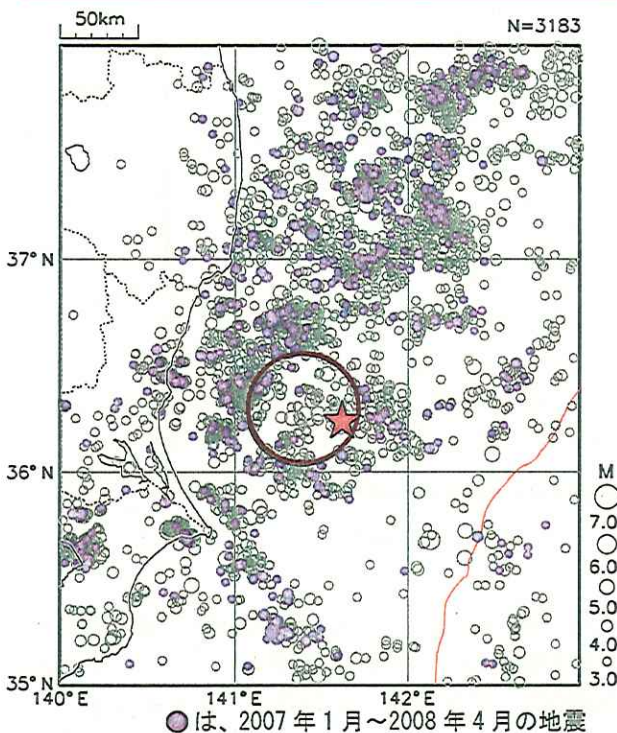
太平洋プレートの地震 (80km 以浅) について  
 $\Delta r : 5\text{km}$ 、 $\Delta t : 10$  日 でデクラスタ処理



- 静穏化領域の検出  
 領域形状：円  
 領域の大きさ：半径 30km  
 領域中心：各地震の震央位置
- 基準期間  
 1997年10月1日～2006年12月31日  
 (各領域の時系列についてポアソン過程と見なせるか検定し、発生率 $\lambda$ を求める。)
- 評価期間 ( $\Delta t$ )  
 2007年1月1日～2008年4月30日  
 地震回数が期待値 $\lambda \Delta t$ のポアソン分布に従うとし、この期間の地震回数以下となる出現確率が1%より小さければ静穏化と認定。

- : 半径 30km 以内で静穏化が見られた領域
- + : 静穏化が検出された領域の中心位置の分布
- 震央 ○ : 1997年10月～2006年12月
- : 2007年1月～2008年4月
- : 2008年5月7日・8日

上記静穏化検出領域付近の地震活動経過 (M $\geq$ 3.0 デクラスタ処理済み)



5.0以上の地震についても2005年までは年に1～2回程度の頻度で発生していたものが、2006年前半から2年ほど発生していなかった。

